

八重山歴史研究会誌

『八重山歴史研究会誌』
創刊号ついに発刊！



たいへんお待たせしてしまつた八重山歴史研究会誌の創刊号が、五月二〇日に納品され、無事発刊いたしました。その日、すぐに会長、副会長、事務局3名で中山市長へ表敬訪問を行いました。中山市長から三〇年という長い活動を

行い、創刊号を手渡すとともに、今後の文化面での活動支援を呼びかけました。中山市長からは三〇年という長い活動を労う言葉がありました。

本会誌は崎山顧問や各会員だけでなく、第1代目会長竹原孫恭氏宅、森田孫榮氏宅にも届け、ご家族の方へ仏前への報告をお願いしました。後日、竹原孫榮氏の次女、石垣さんからは会員宛に金一封が寄せられ、今後の活動へ励ましのお言

第 61 号

編集・発行 八重山歴史研究会
発行日 二〇一〇年六月二一日
事務局・会計 島袋（八重山博物館 〇八二一四七二二）
題字 坡名城泰雄氏



葉もいただいております。

この会誌発刊までの道のりは、予想よりも長くなつてしまいました。ページの都合上、会誌に編集後記は載せられませんが、ここで会員各位へのお礼と事務局の言い訳をかねて掲載します。

《編集後記》

▼このたび、無事に本誌の発刊に至ったことを、編集に携わった者として心から喜びたい。

前会長の崎山直氏より、二〇〇九年が八重山歴史研究会発足から三〇周年に当たると聞いたのは、二〇〇八年の年末のことであった。その三〇周年という節目の年に、若輩者の私が事務局を預かることになった。当初から不安を抱えていたが、案の定職場の異動など諸事情が重なり、例会開催に支障を来



すなどの不具合が生じてしまった。そんな中ではあったが会員各位に原稿を依頼したところ、本誌を構成した諸原稿が集まった。編集に使用していたパソコンのトラブルなどから、ある程度レイアウトが完成するまでには、予想以上の時間がかかってしまった。

▼それでも本誌に対する会員の思いは熱く、年の瀬も押し迫った一二月二〇日。総会において第四代会長に石垣久雄氏を選出し、八重山歴史研究会は新たな一歩を踏み出した。石垣新会長指導の下、編集を一気に加速させ、年が明けた二〇

一〇年一月には、それぞれの執筆者に校正原稿を返すことが出来た。また、現在千葉県在住の得能壽美氏には、原稿の提出もさることながら、校正、監修等で尽力して頂いた。実際に本誌に原稿を寄せた会員だけでなく、全会員の力が発刊を後押ししたのだと思う。

▼今回掲載した原稿は、会誌掲載の原稿に加筆・修正したものや、書き下ろしたものなど多彩である。八重山歴史研究会の名に相応

しく、島々の歴史を紐解く内容が集まったと思う。本書の冒頭、会長である石垣氏のあいさつとともに、崎山氏から研究会のあゆみに関する原稿を頂いた。初代会長竹原孫恭氏、二代目森田孫榮氏、つい先日まで会長を務め現八重山歴史研究会顧問の崎山直氏、そして、現会長の石垣久雄氏。歴代会長のご苦労には感謝し尽くせぬ想いがある。それを忘れないために、三〇年以上前の会報第1号の内容と、八重山歴史研究会として新聞投稿した「古文書に見る乾隆三十六卯年（明和八）の天津波―その実像を求め、牧野説への批判―」の原稿を本誌では掲載させていただいた。

▼個々の論文については、ここでコメントするまでもない。多くの人に読んでもらいたい、それだけである。八重山歴史研究会のあゆみが今後も続くことを願い、編集後記とする。
(島袋綾野)

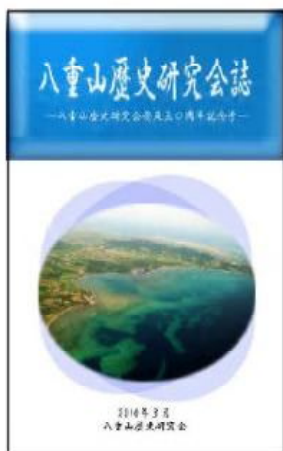
なお、『八重山歴史研究会誌』は、事務局からの直接購入、山田書店のほか、沖縄・八重山歴史研究会の例会、インターネットでも注文・購入可能です。県外からの問い合わせを承けた場合には、その旨お知らせください。現在まで、大学付属図書館なども、こちらからご購入いただいています。

ショッピングカートURL

→<http://yaeyamakenkyu.cart.fc2.com/>

また、広報としては八重山研究合同ウェブサイト (<http://yaeyamakenkyu.michikusa.jp/>) からインターネット販売

八重山歴史研究会誌



—創刊号 発刊— 300部限定!

1500円(送料込) A5, 総頁数160頁

《発刊のことば》八重山歴史研究会会長 石垣 久雄

《論文》

- 災害史の側面からみた人頭税—大津波・飢饉・干ばつ・疾病等を中心に—、○琉球王府の特命を受けたばかりの人々、○イノシシについて、○住まいを考える、○近世八重山における島産品の利用と上納—陸産のアダンと海産の海人草—、○八重山方言の重ね言葉、○墓—現世の思いと後生の住まい—

《コラム》

- ジュゴンとその「皮」、そして「肉」、○検使恩納親方の「仕置」について、○地域素材を掘り起こす—小学校社会科の取り組みを通して—、

《資料》

- 八重山歴史研究会による新聞投稿「古文書に見る乾隆三十六卯年(明和八)の大津波—その実像を求め、牧野説への批判—」、○八重山歴史研究会会報 創刊号、○八重山歴史研究会会則

期間限定ネット通販中 (<http://yaeyamakenkyu.michikusa.jp/top.html>)

用カートへのリンクを貼っていますので、利用することができます。

そして、早速ではありませんが、第2号の原稿を募集いたします。どうか、今回も多くの会員が投稿してくださいませうお願いいたします。第2号の原稿締め切りは、取り急ぎ二月末までとします。あと一〇〇冊程販売できれば、1冊目より少し薄くなりますが、2冊目の印刷費が確保できる予定です。売り上げ向上にもご協力をお願いいたします。

なお、原稿は前回同様、事務局島袋までお届けください。

八重山歴史研究会 例△云

『北木山風水記』 学子羽目△云

いろいろな意見交換がなされながら、学習会が続いています。風水の問題ということで難しい部分もありますが、会員各位の経験や知識を基に、充実した学習が進められています。各地域の概要は、現状とぴったり合う部分もありますが、逆に現状から考えた場合、訳文に違和感を覚える所も出てきました。こういった箇所を地道に検証しながら、1冊読み終わるまで続けていきたいと思えます。

なお、毎回、北木山風水記に出てくる地名だけではなく、史跡などを現地研修しようというお話は出ますが、実行には至っておりません。ぜひ、8月か9月の例会を目前に、一度は実施したいと思えます。皆さまのご意見・ご要望を事務局

にお寄せ下さい。

石垣市教育委員会・日本人類学会共催
白保竿根田原洞穴に関する
骨講座・展示会・シンポジウム



去る七月六日(日)から、石垣市立図書館で「骨講座」が始まっています。七月一日までの予定で、計5回の講座が予定され、人類化石やその他、動物層に至るまで更新世という時期を考えようという企画になっています。すでに2回の講座が終了しておりますが、会場は連日満員で、関心の高さがうかがえます。この一連の企画として、八重山博物館では

七月二七日〜八月八日までの日程で更新世人類にスポットを当てた展示会を、七月三十一日には石垣市教育委員会文化課主管のシンポジウムが企画されています。

約2万年前の骨が見つかった、という報道は、全国を駆けめぐりました。それはとても重要なことですが、地元情報がない、というのが欠点でした。今回の講座では、それらを出来る限り公開しようという目的もあります。八重山博物館での展示は、沖縄県立博物館・美術館の学芸員と相談しながら、出来る限り、沖縄・八重山に関係した展示を企画中です。楽しみにお待ち下さい!



なお、上の写真が洞穴入口の現在の様子です。新空港建設現場の敷地内であることから、なかなか立ち入ることはできませんが、もし先述した現地研修が決まれば、研究会として見学申請を出したいと思えます。こちらもお楽しみに!